

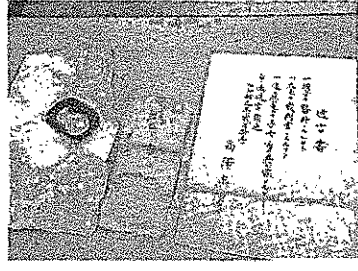
7/22 斎藤

# 父は遺言と遺髪残して…

東京都日野市の佐藤禮子さん(80)は、「戦争はいやだ、平和憲法を守ろう」の一点で共同する「日野の会」に参加、「戦争ってこんなものなのよ」と戦争法案反対を訴えています。

## 止めよう 戦争法案

「会に参加した一番大きな理由は、71年前に父(4年)2月15日に書かれた遺言なんです。父は36歳で、両親と弟の4人で東京・青山に住んでいました。最後に来た



父親の「遺言書」と遺髪

### 東京・日野市 佐藤禮子さん(80)



父親の「遺言書」を掲げる佐藤禮子さん

「何のことかと、朝ごはんの時に、聞いたら、『れいこちゃん知らないの』って。ただ母が、父の髪の毛です。16日朝、暗いうちに熊本の連隊にたちまちが、『あなた、これだけ預かかってちょうだい』と、たが、それで遺言を15日8歳の娘にそういったんに書いたんだと思いません」

母は、この年の4月27日に過労で亡くなり、鏡台の引き出しに遺言書が入っているのを見つけました。「置いていかれた佐藤さんは、『これは焼けちゃったら、大変です』」

「疎開から帰京し、焼け野が原をさまよいながら、いいおばあちゃんになって、80歳になりました」という佐藤さん。「2人の娘にも弟にも見せたことはありません。封印してたんです」という遺言書を最近、明らかにしたのは、自衛隊のなかで「遺書」を強制されているというのを「しんぶん赤旗」の報道で知ったからです。

「これから、徴兵制などになったときには、必ずこういう遺言書を書くことになる。マスコミにたいしても大変な圧力がかかりだしてきていますね。スポンサーをやめさせるとか。戦前の時代

と、いろんなことがそっくりに遺言を書かせる時代はくりだと思えます。若者だめ」(青野圭)

### 「兵たん」安全じゃない

東京都練馬区在住の87歳の女性は、社会部の「止めよう戦争法案」ファクダ「などということはありません。メール箱」に情報を寄せました。

安倍首相からはあまりに戦争のことを知らなすぎます。戦争法案の強行採決は許されません。こんなことをしていたら、戦争になってしまいます。絶対に廃案にしてください。

情報はこちらまで  
 ファクス：03 (3225) 1434  
 Eメール：  
 hensyukoe@jcp.or.jp